



あみだすず 阿弥陀清水

～令和元年度選定～ Googleマップ

山形市大字土坂



〔管理者・保全団体〕土坂町内会

ポイント

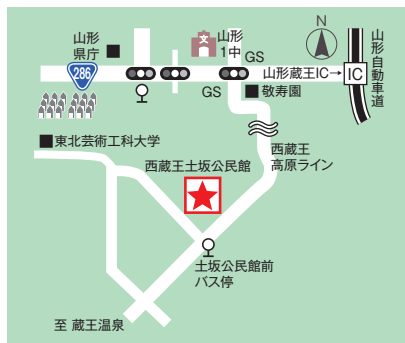
山形市の東方、県庁から蔵王高原ラインを蔵王に向かう途中、土坂公民館の脇、柵に囲まれた奥にある。傍らに祀られた阿弥陀仏から「阿弥陀清水」と呼ばれている。昭和61年に県道が整備された際に県道の下となり、このような形で保存されることになったが奥まった暗がりでは、整然と並ぶ玉砂利敷きの隙間からこんこんと水が湧き出ている。下流の堰には、梅花藻が繁茂し、初夏から晩秋にかけて水中に白い可憐な花を咲かせる。

昔、瀧山詣が盛んな頃（かつてこの地が「^{くまやぐらむら}草矢倉村」という名前の村だった頃）から、ここを通る旅人が、この清水でのどを潤し一休みしたといわれる。現在も多くの人がこの水を求めて訪れる。



アクセス (北緯38.207056°、東経140.369167°)

国道286号線から県道167号線（蔵王高原ライン）へ入り、蔵王温泉方面に約10分、7kmほど進む。土坂公民館前バス停が見えたら、T字路を右折すると、すぐ右手に土坂公民館があり、湧水は土坂公民館の奥にある。公民館前に駐車は可能である。



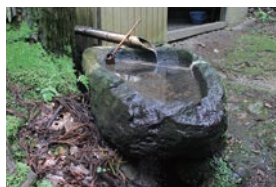


〔管理者・保全団体〕 風間町内会

ポイント

山形市の北東部、大岡山の麓にある「風間の御不動様」に湧き、登山者の水場としても知られる。古くから近隣の信仰を集め、湧水を利用する神事「湯立」では、沸かした聖水を笹の葉で参詣者に振りかけ災厄を祓うほか、その年の吉兆を占う「神降し」も執り行われていた。

社の裏手には俱利伽羅大聖不動明王が祀られている。不動明王が祀られた時期はわからないが、境内には社の普請勧進をした三郎衛の墓に、宝暦七年（1757年）の記があり、250年以上の歴史がある。また、近隣には、東北三十六不動尊霊場第四番札所である、古刹の大樹院がある。



アクセス (北緯38.289929°、東経140.373434°)

国道13号大野目交差点から県道19号通称山寺街道を670m程進むとT字路がある。そこを右折すると大岡山登山道の案内看板がある。さらに400m程進み、左手の山際に続く農道に左折すると大岡山南登山道入口に着き、徒歩で5分程度登ると御不動様がある。





菅谷大聖不動明王の水

山形市大字門伝



〔管理者〕 高野善和〔保全団体〕 高野善和ほか

ポイント

山形市西部、県民の森の山際にある不動尊の傍らでは川のせせらぎが響き、清涼感のある水が勢いよく湧き出ている。この水は、眼病を治す御利益があると伝えられている。5月13日の「白鷹山虚空蔵尊祭礼」の日には、旗を揚げてにぎやかに祭りが行われる。

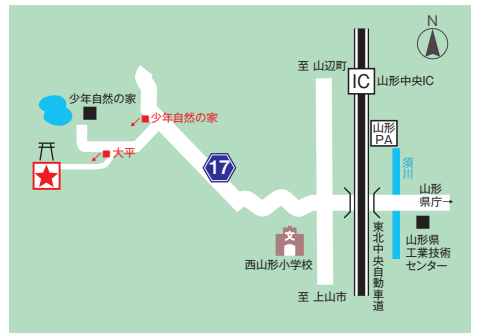
菅谷大聖不動明王は、新潟県新発田市にある菅谷不動尊から分祀され、明治31年頃に建立されたとの由来がある。また、近くを古い街道（＝狐越街道（慶長5年（1600年）の「東北の関ヶ原・慶長出羽合戦」にまつわる歴史的な街道））が通っており、少し行けば「長谷堂城址」、「畑谷城址」などの史跡を見ることができる。



アクセス

（北緯38.229750°、東経140.204833°）

山形市街地から県道17号線で県民の森方面を目指す。山道の途中、「山形市・少年自然の家」の案内標識のあるY字路を左折し、500mほど進むと「大平3km」の標識が見えてくる。そこを左折して1kmほど直進すると右側斜面に湧水がある。





〔管理者・保全団体〕半郷共有財産組合

ポイント

大坊清水は、山形市蔵王上野地内にある清涼感漂う湧水池である。周囲は緑豊かな杉林に囲まれ、湧水池の上手には水神様が祀られており、毎年5月には水神祭が執り行われている。また、周辺からは甕などの縄文土器が数多く発見され、縄文時代から湧水と共に人々が暮らしていたことがうかがえる。古来より親しまれてきたこの水は、正に「いにしへの湧き水」である。

慈覚大師円仁によって龍山信仰が盛んになり、平安時代の西暦867年、瀧山三百坊の一つとして上野大坊院が開基される。その付近にあった湧水池が大坊清水であり、そこに宿坊として僧兵たちが住む宗教集落ができたとされている。



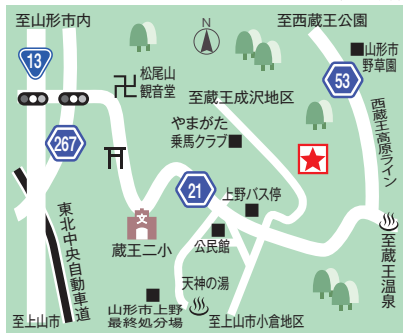
湧水石碑



蔵王温泉街

アクセス (北緯 38.174569°、東経 140.342773°)

国道13号線から県道21号蔵王公園線を蔵王温泉方面に4.5km程進む。蔵王上野地区にある十字路を左折して農免道路上野成沢線に入り、300m程進むと到着。





みずかた ふ どうそん みず 水方不動尊の水

山形市大字柏倉



〔管理者〕黒田 清和 〔保全団体〕お不動様の緑日を保存する会

ポイント

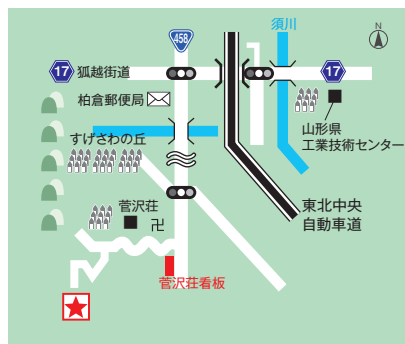
山形市の西部、大森山の麓にある湧水。付近には住宅団地があるが、山に一步踏み入るだけで深山幽谷の社の趣きが感じられる。江戸時代から信仰を集めた不動尊は、特に眼病平癒に御利益があるとされており、初夏にはホタルも見られ豊かな自然に囲まれている。不動尊まで行く旧参道には、鳥居があり姥神様が祀られている。

文政十二年（1829年）堀田藩山形分領、柏倉陣屋の御典医中村文哉が、同家に伝わる不動明王像を遷座し、村民の病氣平癒を願ったのが始まりである。その後、近隣村々の諸願成就の信仰を集めるようになった。



アクセス (北緯38.220335°、東経140.263969°)

県道17号を西に進み、国道458号との交差点を左折し南進する。「菅沢荘」の看板があるT字路を右折し、道なりに600m程進み、T字路を左折する。貯水池脇のT字路付近に駐車し徒歩で100m程進むと水方不動尊がある。





〔管理者・保全団体〕 前田代上水道組合

ポイント

寒河江市白岩から北に県道を進むと、田園の中、道路わきのコンクリートの側面から勢いよく水が出ている。「銘水 庚申水」の看板から、その水が湧きだるとわかる。この水源は、この地から5km程離れた霊峰葉山の麓にあり、そこから引き込んで、昭和44年に作られた。遠方からも水を汲みに来る人々も多い。

この水場の脇に立つ石碑「庚申碑」は、田代集落の入り口と奥にあったものを移設したもので、寛政十二年庚申の文字が刻まれている。道祖神、塞ノ神の役割を持ち、村の出入りに配置し祀ることで、福の漏出を防ぎ、災いの侵入を防ぐ役割がある。



アクセス (北緯38.454778°、東経140.225000°)

国道112号線を寒河江から鶴岡方面に進み、バイパスから白岩方面の旧道に入る。臥竜橋を渡り、500mほど進んで田代方面へのT字路を右折する。県道286号線を5kmほど道なりに進むと田代集落に到着する。集落入口のY字路を左方向に進み、950m程先の道沿い左側に庚申水がある。





〔管理者・保全団体〕 田代行沢水道組合

ポイント

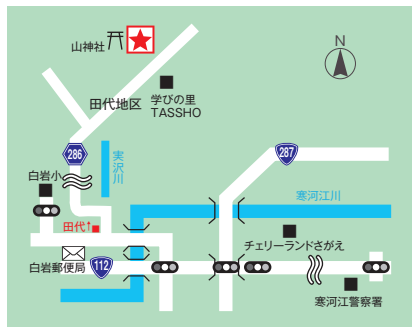
寒河江方面から霊峰葉山へ向かう道の途中、田代地区の山神社境内に、大きな石の水受けがあり、水音とともに水が勢よく流れ出ている。神社境内に水が湧き出ることから、「神明水」と呼ばれるようになった。夏でも枯れることがなく、神社参拝の清めの水（手水）として利用されている。

この地は、かつて葉山信仰の中心であった天台宗大円院（今は現存せず）への登り口の古い街道沿いにある。近くには、田代地区を一望できる「天下森散策コース」や、学びの里「TASSHŌ」があり、湧水とともに、自然体験を楽しむことができる。



アクセス (北緯38.450333°、東経140.236667°)

寒河江市内、国道112号線を鶴岡に向かい、バイパスから白岩方面の旧道に入る。臥竜橋を渡って500m程進み田代方面へ右折し、県道286号線を5Km程道なりに進むと田代集落がある。集落入口のY字路を右方向、500m程で学びの里「TASSHŌ」があり、さらに300m程で神明水がある山神社に着く。





ちようめいすい 長命水

～平成27年度選定～ Googleマップ

寒河江市大字白岩2383地内



〔管理者〕寒河江市 〔保全団体〕寒河江市指定管理者

ポイント

寒河江市白岩から北に入った「葉山市民荘」の入り口に「長命水」の標識とともに、5つの出口から冷たく清浄な水が勢い良く出ている。水源は葉山を源とする湧水で、登山道を上り、旧キャンプ場のところに湧いている水を引いている。

周囲は広葉樹の中にまばらに民家・別荘がある。標高は750mほどで、葉山の中腹にあり四季ごとに美しさがある。



アクセス

(北緯38.499417°、東経140.223917°)

寒河江市白岩の白岩郵便局の東から県道286号線を北に入り、実沢川沿いに4kmほど上ると、前田代地区の手前にY字路があり、「葉山市民荘入口」の看板がある。

そこを左折して清水山地区を通過して8.5kmほど進むと、左側に葉山市民荘があり、その入口付近に「長命水」がある。

道路は舗装してあるが狭いので、対向車等に注意が必要である。

なお、「葉山市民荘」は毎年10月中旬から5月上旬まで閉鎖している。





ぼうだいら しず 坊平のお清水

～平成27年度選定～ Googleマップ

上山市蔵王坊平高原



〔管理者〕 蔵王坊平観光協議会 〔保全団体〕 上山市山岳会

ポイント

蔵王エコーラインを上り刈田岳の途中にある坊平蔵王ライザスキー場の、「お清水の森」の中にある。この森は標高1,100mでは珍しい杉の大木とブナ林からなり、湧水は森の中から湧き出しており、貯水槽にためられた後にパイプで石の手水鉢へと導かれている。これまでに枯れたことはなく、湧出量は季節によって変動する。

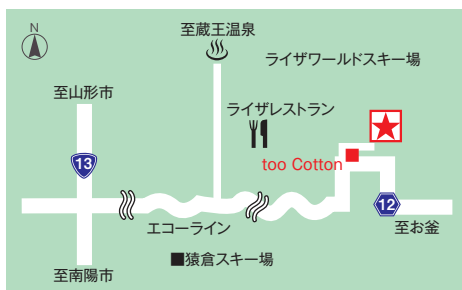
周囲は「クアオルト健康ウオーキングコース」にもなっていて、スポーツをして東屋で水音を楽しみながら休息できる。また、森を下りゲレンデに出ると上山、山形南部、遠くは朝日連峰までの眺望がみられ、レストランでくつろぐこともできる。



アクセス (北緯38.125083°、東経140.409444°)

上山市から蔵王エコーラインを上り、猿倉スキー場の横を過ぎ、蔵王ライザワールドスキー場に着く。スキー場入口付近から更に500mほど進むと、カーブの手前に「too Cotton」の標識がある。そこに駐車し、ゲレンデを抜け森の方に徒歩で100mほど進む。

仙人沢・中丸山の標識の下に「お清水の森」の表示があり、そこから徒歩で200mほど山道を上ると「坊平のお清水」に到着する。





いたや清水

村山市大字樽石字垂水716-2（樽石大学地内）



〔管理者・保全団体〕 樽石大学

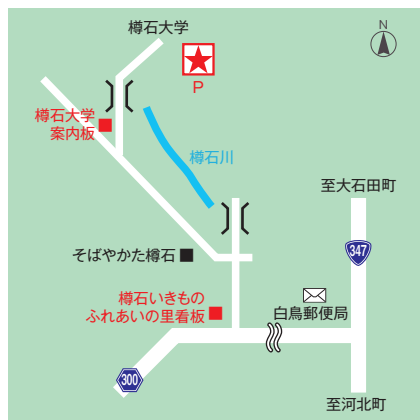
ポイント

村山市の樽石地区から1kmほど上った樽石川の上流部にあり、生涯学習施設として市民の手で作られた「樽石大学」の駐車場の入り口にある。ステンレスの流し台には6つの蛇口があり清浄な水が豊富に出ている。車を近くまで寄せられるので水が汲みやすい。また、名水としての知名度が高いため、多くの人々が季節を問わずひっきりなしに訪れている。この水は1.2kmほど上流の二ノ沢付近の湧水をここに引いてきている。



アクセス （北緯38.507472°、東経140.295556°）

村山市西側、国道347号線の白鳥郵便局の南から県道300号線を2kmほど西進し、右側の「樽石いきものふれあいの里」の看板から右折する。「そばやかた樽石」の前を通り、樽石地区を抜け樽石川上流に向かって2kmほど進む。「樽石大学」の看板を右に下り、橋を渡ると大学の建屋と駐車場手前に「いたや清水」がある。





〔管理者〕 戸沢地域市民センター 〔保全団体〕 樽石いきものふれあいの里の会

ポイント

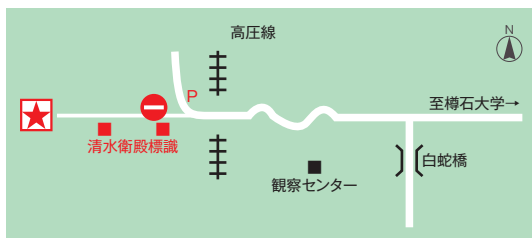
村山市の樽石川の最上流部にあり、ブナ原生林の山の中腹から多量の伏流水が湧出しており、苔むした岩の間を流れている。標高は620mほどで周囲はブナ林、杉林に囲まれ、湧出した水の流れる先には石積みのワサビ田の跡がある。40～50年前、清冽な水を使いワサビの育成に取り組んだが、カモシカの食害のために断念した。今ではその石積みも苔が張り自然に溶け込み、自然の中の幻想的な湧水である。標識が整備され散策ルートになっている。



アクセス

(北緯38.520111°、東経140.249194°)

いたや清水のある樽石大学に向かう直前の交差点を直進し、樽石川上流方向に2kmほど進むと、「白蛇橋の由来」の表示のある橋があるが、これを渡らずに右に直進して更に1.5kmほど進むと「観察センター」がある。そこから更に1kmほど道なりに進むと、急に道が右に曲がり川から離れるところがある。そこに車を停めて、「ブナ林コース終点」の標識から杉林の登り道を約500m(約25分)上り、突きあたると「清水衛殿」に到着する。散策道途中で標識がある。水場周辺は足元に注意が必要。





とうぜんじ みず 東漸寺の水

～令和元年度選定～ Googleマップ

天童市大字貫津



〔管理者〕上貫津町内会〔保全団体〕津山の自然を守る会

ポイント

天童市貫津^{あめよばりやま}の裾野にある「じゃがらむら」から林道を約1km登ると、木々の緑に囲まれた池がある。岩の隙間から湧く水の量は多く、澄んだ水面を揺らして湧く様からは、躍動感が伝わってくる。この湧水は、昔から名水とされ、雨呼山は、この地の稲作に不可欠な水をもたらす山として、信仰されてきた。

近くには、平安期の寺院「東漸寺」の名残の宝塔（天童市指定有形文化財）があり、当時の面影を残す。また、夏でも冷風が出る風穴「ジャガラモガラ」、やまがた百名山の「雨呼山」の散策を楽しむことができる。



みねご たき 峰越しの瀧

～令和2年度選定～ Googleマップ

天童市大字奈良沢



〔管理者・保全団体〕奈良沢町内会

ポイント

天童市奈良沢地区の林の中に、天童の三不動尊の一つ、剣瀧山不動尊がある。その不動尊に豊富に流れ落ちる滝が「峰越しの瀧」であり、訪れた人々の気持ちを癒してくれる空間となっている。滝は「東漸寺の水」を水源としている。

江戸初期、水田を開拓するために「東善寺堰」が造られたが、元禄2年に奈良沢と貫津で水争いが起こり、協議の末、奈良沢と貫津で8分2厘、貫津に1分8厘の水を流すことで和解した。現在も「分水石」により、その割合で堰から流れている。その堰の水が不動尊堂の裏山の峰を越えて瀧となって流れ落ちることから「峰越しの瀧」という名がついた。

アクセス

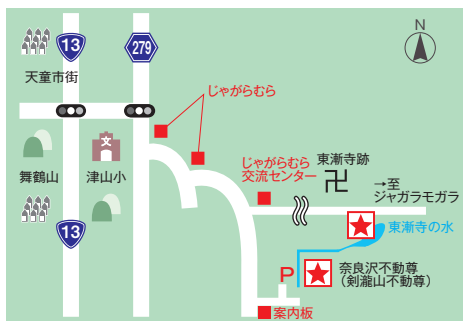
東漸寺の水（北緯38.345331°、東経140.420685°）

峰越しの瀧（北緯38.342662°、東経140.414958°）

津山小学校前の信号から南に進む。100m程進むと「じゃがらむら」の標識があるので、「交流センター」を目指す。

交流センター脇の林道を約1km上った右側の所にあるのが東漸寺の水である。

交流センターから400m程南へ進み、奈良沢不動尊の看板から左折し、さらに1km程進むと 不動尊入口に着く。





くろぶしかんのんすい
黒伏観音水

～令和3年度選定～ Googleマップ

東根市大字観音寺

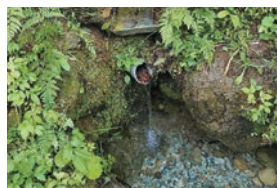


〔管理者・保全団体〕観音寺生産森林組合

ポイント

黒伏高原へ向かう山間の麓に、冷涼感のある水が湧き出ている。この水場には、水神が祀られており、道路が整備されていない時代は、集落から山仕事に向かう途中の休憩地点であり、欠かすことの出来ない憩いの場所であった。現在でも、多くの人々が水筒を片手に訪れては、水の恵みを楽しんでいる。

黒伏山は、摩天崖と呼ばれる断崖絶壁をそびえる観音寺黒伏山と沢渡黒伏山からなる二峰一山である。四季折々の景観が美しく、特に紅葉時の景観は極めて素晴らしい眺望である。観音寺地区は、平安時代の貞観7年に定額寺となった出羽国観音寺があったこと由来する。平成20年に観音寺集落内にあった水神を移設し、現在の祠を創建した。



湧出口



黒伏山

アクセス (北緯 38.424823°、東経 140.504590°)

天童方面から国道48号線高崎小学校前を左折し、黒伏高原スノーパークへ向かう。途中、右手に間木野集落と採石場が見えるところから3kmほど進むと湧水への入り口である脇道が右手に見える。その道を250mほど進んだ開けた場所の片隅に水場がある。





〔管理者〕横尾 智三郎 〔保全団体〕石垣 久雄

ポイント

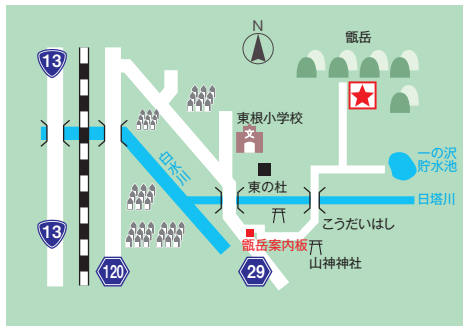
甑岳の登山道のうち、「ハチカ沢コース」と接続する林道沿いの斜面から湧き出ている。湧水や林道は、地元有志の活動により、日常的に維持管理されており、景観・アクセスともに良好である。湧水には登山者だけでなく、周辺地域の人々も数多く訪れ、汲んだ湧水を沸かして作るお茶やコーヒーが美味しいと評判である。

甑岳は古来より霊山として知られ、周辺の山林と共に人々の厚い信仰や崇拝を受け続けてきた。その内の一つには、飛鳥時代から現代まで続く歴史ある修験道も存在する。「長命水」の名は、水汲み場として整備された際、霊験あらたかな甑岳とその歴史にあやかり名付けられたものだという。



アクセス (北緯38.457061°、東経140.437433°)

東根小学校から県道29号を南東方面に進む。日塔川を渡り750m程進むと小屋に「甑岳登山口」の看板がある。そこを左折し、500m程進み右折する。果樹園を抜け、林道を進むと登山道案内看板のある分岐に至る。分岐を左折し、1km程進んだ先にある。





ごしょみず 御所の水

尾花沢市大字鶴子



〔管理者・保全団体〕 鶴子地区環境整備振興会

ポイント

新鶴子ダムの手前1 kmほどのところにあり、周囲には観音様や水神様が祀られ、御所の水の周辺一体が親水公園「御所の水公園」として整備されている。背後は急峻な杉林となっており、その山の伏流水であり、四季を通じて豊富な水量がある。また、周囲の休耕田には1万株以上のハスが植えられ、夏には見事に咲き誇る。8月初旬には、「鶴子御所の水公園ハスマつり」が開催される。鶴子地区環境整備振興会の方々が整備、清掃を行っている。



アクセス

 (北緯38.528861°、東経140.501250°)

県道301号線を東に向かい、旧鶴子小学校を過ぎて約800m進むと「御所の水」の大きな石碑がある。石碑の手前を右折し、ハス公園の看板の見える方に進み、狭い未舗装路を1 kmほど進むと御所の水がある。

御所の水の手前や奥に駐車可能。





なら き だちちょうじゅ めいすい 榎の木立長寿の名水

尾花沢市大字母袋



〔管理者・保全団体〕 母袋地区

ポイント

尾花沢市の市街地から車で20分ほど東に向かった母袋地区の先にある。「榎の木立長寿の名水」の標識が道路左にあり10mほど下ると清浄な水が湧出している。周囲は国有林で、スギ、ナラ等の木が生育している。

水場の近くには水の分析表があり、地区の人が関心を持って管理していることが感じられる。近くには、県指定天然記念物「鉄魚」が生息している若畑沼等の湖沼が複数あり、沢が流れ、周囲には豊富な伏流水がある。

アクセス

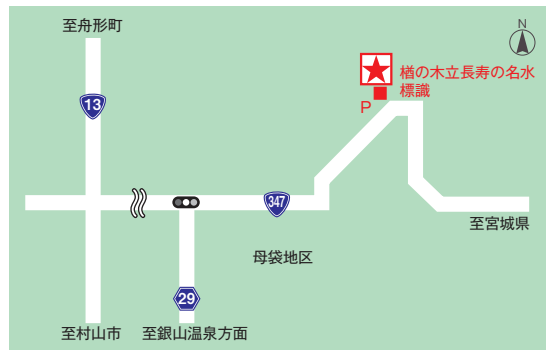
(北緯38.602278°、東経140.539306°)

尾花沢市の北部、国道347号線を東に向かい、鶴巻田地内の県道29号との交差点から更に6.5kmほど進むと、左側に「榎の木立長寿の名水」の標識がある。車が4～5台止められる駐車帯があり、10mほど下ったところに湧水がある。

雪が解け、桜の開花とともにこの水も汲めるようになる。



尾花沢市立母袋地区「長寿の名水」	
項目	内容
所在地	尾花沢市大字母袋
水源	伏流水
湧出量	約100ℓ/分
水温	約10℃
水質	清浄
利用	飲用、農業用水
備考	雪が解け、桜の開花とともにこの水も汲めるようになる。





〔管理者〕寺町生産森林組合 〔保全団体〕寺町地区

ポイント

尾花沢市の東、銀山温泉への途中に「ブナ共生の森」がある。その西口手前の道路のそばにひっそりと「ブナ源水」がある。周囲をブナ林に囲まれ、「ブナ源水」の標識と大きい自然石のそばに石積みがあり、そこに水が湧出している。水源は水場から10mほど上にあり、パイプで小さな広場まで導いている。

このあたりは標高が300m程度にもかかわらずブナ林が生育する珍しい場所である。付近には銀山温泉、また、管理が行き届いた散策道路もあり「美しい日本の歩きたくなるみち500選」にも選ばれている。


アクセス (北緯38.563222°、東経140.514444°)

尾花沢市から国道347号線を銀山温泉方面に向かい、鶴巻田地区の信号を右折して県道29号線に入る。3kmほど南進して下柳渡戸から左折して県道188号線に入り、銀山温泉方面に向かう。1.6kmほど進むと旧上柳小学校が右に見え、更に250mほど進むと「ブナ共生の森」の表示板がある。右折して南進し、約700m行くと「ブナ観音」の看板があり、左折して400mほど進むとカーブの手前の右側にある。道路左側に3～4台車が止められる。





〔管理者〕共有地管理会 〔保全団体〕三日町自治会

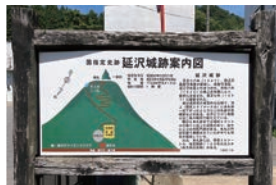
ポイント

山の神清水は、延沢地区の集落から少し離れた場所にある「山の神々社」から湧き出ている泉である。山の神は道祖神として信仰され、春はお田の神として里におり田畑を守り、収穫が終わると山に帰ると云われていた。農家や山仕事をする人々は、必ず餅をついてお供えをし、神が山に戻ると山には絶対に行かないようにしていた。

尾花沢市の歴史地区である延沢は、戦国期に当地域を支配していた野辺沢満延の居城・延沢城跡があることから、様々な地域活性化の取組みをしている。そして、延沢は大正ロマン漂う銀山温泉に向かう途中の地区であるので、気軽に立ち寄れる利便性の良い場所である。



湧出口



延沢城跡 案内看板

アクセス (北緯38.555524°、東経140.472189°)

尾花沢市役所から東へ進み、県道301号線を南東に6km程進むと、延沢郵便局が見えてくる。そこから500m程進んだ所を右折し、道なりに1km程進む。細野地区方面に右折し、農免道路を進むとすぐ傍にある。





〔管理者・保全団体〕畑谷区

ポイント

「亀ノ子」（別名「たらたら清水」）は、山辺町の12の銘水のうち、九番水として人気がある。以前は比較的目立たない湧水であったが、昭和20年に、当地出身の永田亀之介氏が整備し、氏にちなんだユーモラスな亀の像にちなみ「カメノゴ」と呼ばれ、親しまれていた。平成10年に再整備されて以来、固定ファンも増え、水汲みに訪れる人も多い。五番水には同じく亀の像がある「萬年水」もある。別名の「たらたら清水」のいわれは、湧水量が少なく「たらたら」としか流れていないからだと言われる。

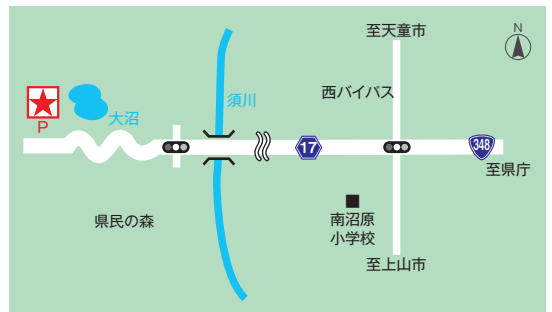


アクセス

 (北緯38.247111°、東経140.193389°)

山形市から、国道286号線、国道348号線、県道17号線を「県民の森」方面へ西に進む。「県民の森」に入り、「大沼」を右手にみながら、更に1kmほど進むと、道路右側待避帯に「たらたら清水」の標識とともに「亀ノ子」がある。

待避帯には車2～3台駐車可能であるが、従来の車両には十分注意が必要である。





ごばんみき 五番御神酒

山辺町大字畑谷



〔管理者〕畑谷区（作谷沢振興会）〔保全団体〕畑谷区

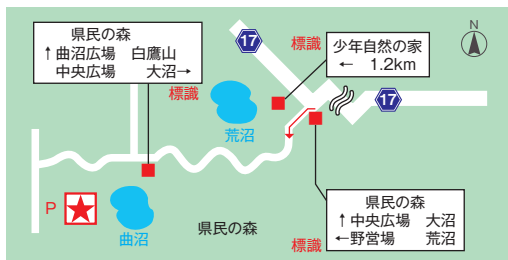
ポイント

山辺町の12の銘水の十一番水は、五番御神酒である。県民の森の西、片倉山南側の道路そばの窪地に、杉の古木に守られるように小さな池があり、清冽な湧き水が白砂を巻き上げながら湧き出ている。池から流れ出た小川は、付近の湧水と合流し、畑谷地区を通り、沢上川となり、更に送橋川となって最上川に注ぐ。流れ出る水は冷たく、付近にミズバショウの群生を育んでいる。

アクセス

(北緯38.235528°、東経140.179639°)

山形市から県道17号線を「県民の森」方面へ進み、「県民の森」の手前で「山形市少年自然の家1.2km」の標識がある交差点を左折する。道なりに3kmほど進むと、「中央広場・大沼」方面への分岐T字路・駐車場に到着する。このT字路を「曲沼広場・白鷹山」方面へ直進し、1.4kmほど進むと更にT字路があるので、左折後50mほど進むと、左側に車数台が駐車できるスペースがあり、その先に「五番御神酒」がある。





〔管理者〕 築沢区（作谷沢振興会） 〔保全団体〕 築沢区

ポイント

山辺町作谷沢地区は豊富な湧水に恵まれており、その中から12箇所の湧水を銘水として登録して湧水マップを作成している。「龍神水」は、この中の一番水として知られている。

「龍神水」は、同町内築沢地区にある子安神社の境内にあり、龍神が飛来したといういわれがある。これは子安神社の由緒にある光輪飛来に由来する、隕石落下を彷彿とさせる。現在の龍神水は、平成10年に整備されたものである。里に近く、気軽に利用することができる。



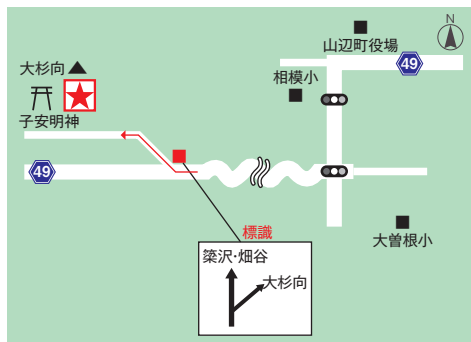
アクセス

 (北緯38.263444°、東経140.201889°)

山辺町の南にある県道49号線を南進し、相模小学校から更に1kmほど進んだ先にある交差点を「畑谷」方面へ右折する。7kmほど進み、Y字路を「大杉向」方面へ右折し、更に300mほどで「子安神社」手前にある「龍神水」へ到着する。

あるいは山形市から県道17号線を「県民の森」方面へ進み、「大沼」を経て「畑谷」から「築沢」地区に入ることもできる。

付近に駐車場はない。





〔管理者・保全団体〕 八ッ沼区

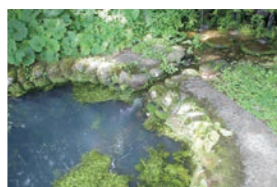
ポイント

朝日町役場から北西に2.6kmほど行った春日沼近くにある。道路そばの杉林に石積みがあり、小さな祠の下の木の樋から水が流れ落ちている。村の生活用水として長く使われて、昭和30年代簡易水道の給水に伴い一度姿を消したが昭和63年に復元されたとのこと。また、八ッ沼のいわれによると、この樋からは青い水が流れるといわれ、池にたまった水も微青白色である。

アクセス

(北緯38.308139°、東経140.126306°)

朝日町役場から北に向かい、県道113号との交差点を左折し、西に向かい最上川を渡る。県道9号線との交差点を右折し、北に400mほど進み、「大沼の浮島」の標識を左折し道なりに800mほど進むと、「若宮寺0.1km」の標識がある。左折し、500mほど曲がらずに道なりに進むと道路そばの右側にある。





すず イカゴの清水

大石田町大字駒籠



〔管理者〕 駒籠地区 〔保全体〕 駒籠地区会

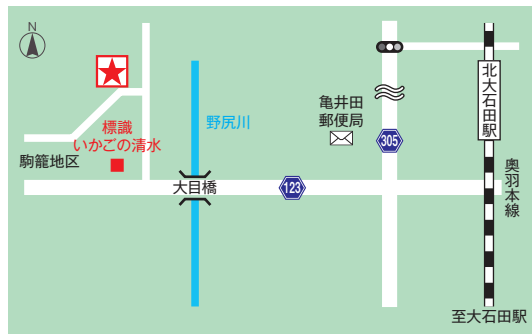
ポイント

JR奥羽本線北大石田駅から道なりに3kmほど西にある。北西に広がる低い山と丘陵の伏流水と考えられる。付近には縄文から中世までの遺跡があり、「イカゴすず」は大石田町の登録記念物になっている。この水の記録はないが、昔からの文化がある場所である。季節によって湧出量は変化するが、枯れたことはないという。



アクセス (北緯38.627389°、東経140.347583°)

北大石田駅を西に向かい、県道305号線との交差点を左折し、南進する。亀井田郵便局の先を右折し、県道123号線を2kmほど西進し、大目橋を渡った所に「いかごの清水」の標識がある。右に入り100mほど先を左折し、数10m進んだ右側にある。





しねんごすず 次年少子こわ清水

大石田町大字次年少子



〔管理者〕大石田町 〔保全体〕次年少子産業協同組合

ポイント

そば街道を通り、次年少子に向かうと、集落の手前に冷たい水が勢いよく湧いている。葉山からの湧水は水量も豊富で、地元の水道にも使われている。「こわ」の名前は、その昔、山仕事や山越えの人々が、この水で喉を潤したが、大変な山道に「こわい」（「つらい」、「苦しい」の方言）と言っていたことによる。水受けは陶器製で、地元の次年少子窯で製作されたもの。次年少子窯の陶器は、県内外の有名老舗旅館の湯舟などにも使われている。湧水から、近傍の大高根山（やまがた百名山）を散策すれば、自然を満喫できる。



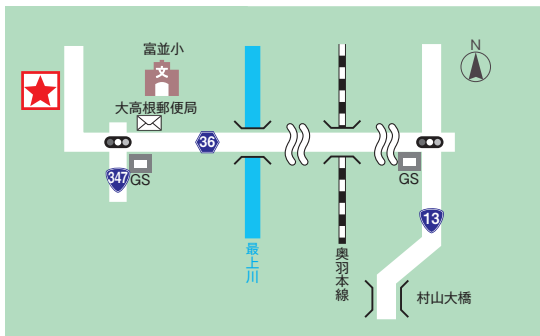
現在の水受け



アクセス

 (北緯38.583992°、東経140.287467°)

村山市内、国道13号線を通り、村山市榊山の交差点を次年少子方面に県道36号線を西に向かう。13km程進むとスノーシェッドがあり、さらに100m先、左側に「こわ清水」の標識。その直ぐ下にある。清水の脇に1、2台分の駐車スペースがある。





ど や す ず 導者清水

～平成30年度選定～ Googleマップ

大石田町大字横山



〔管理者〕 来迎寺地区 〔保全団体〕 来迎寺地区会

ポイント

来迎寺地区内、最上川の河岸段丘に、木立に囲まれた石造りの水場があり、その底から水が湧き出ている。江戸初期、この地域は出羽三山参詣の主要な経路にあたり、参詣の導者（どや）と呼ばれる人々が、この清水に立ち寄り身を清め、喉を潤したと伝えられている。昭和初期頃までは地域住民の生活用水として利用されていた。この湧水は、大石田町の登録文化財。この名水のある来迎寺地区は、そば街道沿いにあり、一带にそば畑が広がっている、そばの在来種「来迎寺そば」の由来ともなっている。



アクセス

 (北緯38.575607°、東経140.385129°)

大石田町内、国道347号線を通り、江戸期に舟運で栄えた船着き場跡を目指す。最上川左岸の川沿いを通る県道381号線に入り、東に道なりに500m程進むと「清水の里 来迎寺」の看板が見えてくる。この看板のあるY字路を左折し250m程進むと左側に「導者清水」の標識。その脇の道を歩いて降りていく。

